報告

「新天文手話講座」開催報告

飯塚高輝（竜のおとし子星の会）

1．はじめに

聴覚障害者へのバリアフリー天文学の推進のため、『新天文手話講座』を 2012 年 2 月 11～12 日に総評会館（千代田区）で開催しました。対象は、聴覚に障害がある人や一般の方（天文に関する研究者、プラネタリウム解説者、手話のできる方等を含む）で新しい天文手話に興味がある方です。「天文分野の専門用語の手話表現方法を学びませんか？また、新天文手話への興味が深まってくると思います」とのよびかけに応えて、延べ 29 名の参加がありました。主催は竜のおとし子星の会、後援は日本プラネタリウム協議会、天文教育普及研究会、東京都聴覚障害者連盟の各団体です。講座には手話通訳と要約筆記がつきました（図 1）。

図 1　研究会風景

2．天文普及教育向けの手話（天文手話法）

手話は情報の発育（判断力、学力を含む）ができますが、一般手話では天文に関する用語に手話が使えませんでした。その時は望遠鏡や双眼鏡で神秘的な天体観望の感動が薄れ、せっかくの天体写真撮影テクニックが生かせなくなってしまいます。そこで、天文普及のため“天文手話”の開発研究に努めていきたいと思います。

“バリアフリー天文学”のため各地プラネタリウム館や天文台等の施設で手話通訳付き番組や手話通訳付き天文講演会等を行う時、手話通訳者として専門用語を使っている手話表現ができない部分があり、指文字を使っています。また、天文知識を持ってない通訳者は天文に関する表現が難しいことがあります。しかし、聴障児たちは天文知識があまりないと指文字を取り読みにくくなってしまいます。また、社会人になったときには、天体現象にあまり興味を感じなくなる方もいます。

天文手話の開発・普及をしないと、天文手話表現方法の困難さが浮き彫りになり天文普及教育（理科の危機を含む）の問題になります。この解決を進めたいと思います。天文知識及び観測の経験を持ってない方は意味のない天文に関する手話表現を作りましたが、アマチュア天文専門家や手話通訳者の中には、このような手話に疑問をもっている方がいます。観測や写真撮影の経験を持つ方が必要じゃないでしょうか？その通り、天体観測・天体写真撮影・新天体捜索等の経験を持つ方は技術力･情報力･開発力の可能性が強くなり、天文手話表現方法を作ることができると思います。例えば、木星の連続観測で縞模様の変化しない現象が間違えない時、この表現が出来上がります。その後、聴障児たちと手話通訳者（一般の方を含む）にはわかりやすい表現方法を覚えやすくなると思います。また、面白い天文手話を覚えてから望遠鏡で鮮やかな天体現象を見せていきたいとも思います。

以前､山梨県立科学館でワークショップ『天文手話を考えよう』が開催され、聴覚障害者と子供たちも一緒に「星座散歩」で見た天体の手話表現を考える活動を行ったのですが、大変楽しく魅力ある活動でした。この活動がきっかけとなり『天文手話を楽しむ子供たち』を増やすためにも、広く一般の方々が天文手話を学べる新天文手話講座を開催したいと思うようになったのです。

3．新天文手話講座の結果

聴覚障害者の天文同好会『竜のおとし子星の会』では、聴覚障害者への天文教育・天文普及やコミュニケーションの際に必要となる専門的な天文・宇宙に関する手話の開発を行っています。新天文手話は、天体や天文現象の形をそのままイメージした手話表現方法で、手話のできない人や子供たちにも、わかりやすいように作りました。本講座には聴覚障害者や地域手話サークル、天文施設など 29 名が参加されて、これまで手話表現が無かった天文・宇宙に関する専門用語の手話表現方法を学ぶ場となりました。

図 2　懇親会にて

プログラムは以下の通りです。

2 月 11 日

13:00～14:00 受付
14:00～14:30 挨拶
14:30～16:50 講座〈通常手話・太陽系編〉
18:00 ～21:00 懇親会（御茶ノ水 LNE）

2 月 12 日

8:45 ～ 9:00 受付
9:30 ～10:55 講座〈天体・宇宙編〉
10:55 ～11:05 休憩
11:05 ～11:45 金環日食に備えて

手話のできない人でも、天体や天文現象の形からイメージした手話表現や宇宙から見たオーロラ・流星の現象なども容易に表現できる天文手話に、大変興味を持っていただけたようです。懇親会も盛り上がりました(図 2)。

2 日目の 2 月 12 日は､手話講習だけではなく、日食情報センターの飯塚礼子さんに『金環日食に備えて』の講演を行っていただきました（図 3）。5 月 21 日の金環日食に関連して、受講者に日食の安全な観察方法等を教えていただいたので、金環日食観察に備えられたことと思います。

図 3　金環日食に関する講演（飯塚氏）

今後、全国各地の聴覚障害者や手話サークル連絡会、天文施設でのワークショップなどで、『天文手話を楽しむ』講演をしていきたいと思います。

飯塚高輝